

## 社会福祉A

〔例題1〕 近年の社会的養護の現状及び制度改正の動向に関する次の記述ア～エのうちには妥当なものが二つある。それらはどれか。

- ア. 里親やファミリーホームに委託された要保護児童の数は増加する傾向にある。
- イ. 社会的養護を必要とする児童においては、全体的に障害等のある児童が増加する傾向にある。
- ウ. 満20歳に達した者については、児童自立生活援助事業の対象から一律に除外されることになった。
- エ. 民間事業者が養子縁組あっせん事業を実施する場合、従来は都道府県知事の許可を受ける必要があったが、法改正によって市町村長への届出のみで事業実施が可能となった。

- 1. ア、イ
- 2. ア、エ
- 3. イ、ウ
- 4. イ、エ
- 5. ウ、エ

【正答1】

## 社会福祉A

〔例題2〕 『高齢社会白書（令和5年版）』（内閣府編）による65歳以上の者の生活環境に関する次の記述ア～エのうちには妥当なものが二つある。それらはどれか。

- ア. 65歳以上の者の6割以上が賃貸住宅に居住している。
- イ. 養護者による虐待の種別を見ると、身体的虐待が最も多くなっている。
- ウ. 特殊詐欺の被害者の8割以上が65歳以上の者である。
- エ. 2015年以降、65歳以上の者の交通事故死者数は増加傾向にある。

【正答3】

## 社会福祉A

〔例題3〕 令和5年（2023年）12月に閣議決定された「こども未来戦略」に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 児童手当については、次代を担う全てのこどもの育ちを支える基礎的な経済支援としての位置付けを明確化し、所得制限の撤廃、支給期間の中学生年代までの延長、多子加算の第3子以降月額3万円への増額を行う。
2. 「出産・子育て応援交付金」（50万円）について、2024年度も継続して実施するとともに、2025年度から子ども・子育て支援法の新たな給付として制度化する。
3. 妊娠期から出産・子育てまで、身近な場所で相談に応じ、多様なニーズに応じた支援につなぐ「伴走型相談支援」について、継続的な実施に向け、児童福祉法の新たな相談支援事業として制度化する。
4. 産後ケア事業について、更なる利用拡大に向け、児童福祉法の子育て支援事業として位置付け、支援を必要とする全ての方が利用できるようにするための提供体制の確保に向けた取組を進める。
5. 全ての子育て家庭に対して、多様な働き方やライフスタイルにかかわらずい形での支援を強化するため、就労要件を問わず月単位で利用できる新たな通園給付「こども誰でも通園制度（仮称）」を創設する。

【正答3】

## 社会福祉A

〔例題4〕 ソーシャル・スキルズ・トレーニング（SST）に関する次の文章の空欄ア～エに該当する語の組合せとして妥当なのはどれか。

ソーシャル・スキルズ・トレーニングとは、アに基づき、人との関わり行動をより適切で効果的に行うことができるよう手助けする援助の方法である。利用者の「ものの見方」「理解や判断」そして「イ」の学習を助けるので、ウの一つに位置づけられている。

ソーシャルワーカーなどの援助者は、利用者が自分の希望する生活の実現に必要な社会生活技能を把握し、身につけたい人との関わり行動を選択し、その内容を段階的に組み立ててエに学習し、身につけることを援助していく。

	ア	イ	ウ	エ
1. 利用者の希望		言動の仕方	認知行動療法	反復的
2. 利用者の希望		言動の仕方	認知行動療法	体系的
3. 利用者の希望		感情表現	対人関係療法	反復的
4. 支援の必要性		感情表現	認知行動療法	体系的
5. 支援の必要性		言動の仕方	対人関係療法	反復的

【正答2】